

# 解 説

附属高等学校 英語科

タイトル：生徒の学びを深める「英語コミュニケーションⅠ」の授業実践

－授業公開とフィードバックを通じた授業改善－

授業者：遊馬 智美

解説タイトル：

「考える」英語コミュニケーションへ ― 板書・相互発表・説得活動を通じた授業改善

コンピテンシー育成開発研究所

特任助教 押尾 恵吾

本実践の特徴は、「英語コミュニケーションⅠ」の授業において、生徒が英語を理解・表現するだけでなく、その過程で「考える」ことを重視し、授業公開と外部からのフィードバックをもとに授業改善を重ねている点にある。報告では、板書、相互発表、「説得する」という三つの言語活動について、改善前と助言を受けて変更した授業の様子が示されている。

板書の改善では、教師が整理して提示していた内容の一部を空欄にし、生徒自身が教科書本文から必要な情報を読み取り、考えてまとめる活動へと変更している。スマートフォンと集中力に関する実験では、本文の結果を確認するだけでなく、三つの被験者グループの条件を比較し、「この実験から何が言えるか」を考えさせている。さらに、その結果を自分自身のスマートフォンの置き方や学習時の集中と関連づけて考える活動へとつなげている。このように、与えられた情報を整理し、複数の条件を比較しながらその意味を考える活動は、**批判的思考力**に関わる学習として捉えることができる。

グループでの相互発表についても、単に自分の内容を順番に発表する活動から、他者の発表を聞く目的を明確にした活動へと改善されている。例えば、自分と他者のスマートフォン使用の共通点と相違点を見つけたり、他の生徒の記述を読んで、その人の状況に応じたアドバイスを書いたりする活動が取り入れられた。自分の考えを伝えるだけでなく、相手が何を考え、どのような状況にあるのかを踏まえて理解しようとする点は、**他者理解力**に関わる学習と見ることができる。

さらに、「説得する」という言語の働きを扱った活動では、相手や目的を明確にすることで、生徒同士のやり取りがより具体的なものへと変化している。スマートフォンの使用を制限しようとする「親」を説得するロールプレイでは、良い点と悪い点を踏まえて説得の仕方を考え、相手からの反論に応じて即興的にやり取りを行っている。最終課題では「授業中のスマートフォン使用禁止」を自治会総会で提案し、グループ内でスピーチ、質疑応答、採決までを行っている。自分の主張だけでなく、他者の質問や異なる意見を受け止めながらやり取りする活動には、**他者理解力**とともに**協働力**の要素も含まれている。

本実践では、生徒自身が情報を読み取り、他者と考えを共有し、相手や目的に応じて表現を工夫する場面を段階的に増やしている。英語科の言語活動の中に、比較・考察・判断する活動や、他者の考えを踏まえてやり取りする活動を組み込むことで、**批判的思考力**、**他者理解力**、**協働力**といったコンピテンシーの育成にもつながる授業実践として位置づけることができる。